

春休みわくわくフェスタ2026 が開催されました！

令和8年3月29日(日)新吉田第二町内会館(以下:会館)で、「春休みわくわくフェスタ2026」が初開催されました。今回のイベントを開催するにあたっては、主催の新吉田第二町内会の山本会長をはじめ役員の方々の「会館で子ども向けのイベントを開きたい」という意向がありました。

これまで会館に入る機会がなかった方にも呼び掛けられるように、回覧板や掲示板を通じて参加募集しました。当日は10人ほどのお子さんとその保護者を含めて40人を超える参加があり、普段は会議などで使われている会場が熱気に包まれました。14時から約2時間のプログラムは、実際に体験もできるあやとりのパフォーマンスと、子どもも大人も楽しめる落語の二本立てで行われました。



開会の挨拶をする山本会長



司会の金子副会長



実際に体験してもらっている様子

＜あやとりサトシ氏によるパフォーマンス＞

司会を務めたのは金子副会長。大きな赤色の蝶ネクタイで首元を飾ると、おしゃれなハットをかぶり、開始を待つ参加者の注目を一手に引き受けました。そんな金子副会長から紹介されて登場した最初の演者は、あやとりパフォーマーとして港北区区民活動支援センターのまちの先生にも登録し、最近ではテレビ番組にも出演するなど活躍されている、あやとりサトシ氏。

両手で扱える長さのあやとり紐だけでなく、長く大きなロープを使ったパフォーマンスや、水泳教室で使う長い棒状の浮き輪を3cmほどの厚さに切ったものを使った技(輪抜き)の披露など、盛りだくさんの演目となり、あっという間の30分間でした。また、一人一本ずつ配られたあやとり紐に手が慣れてくると、ご高齢の方からも「懐かしい」「思い出した!」の声が聞こえてきました。

参加者の年齢を超えて会場を魅了した、あやとりサトシ氏。その後にはラジオ収録が控えているとのことで、たくさんの拍手と共に会場を後にされました。



あやとりサトシ氏（右）と当日アシスタントを務められたお母様（左）

<落語家 桂 銀治氏による落語会>

あやとりのパフォーマンスの後、15分間の休憩をはさみました。その間あやとりで遊んでいる子どもや、おしゃべりを楽しむ方など、始終和やかな雰囲気でした。そして、小さく聞こえてくる出囃子とともに登場されたのは、若手落語家の桂銀治氏。

北村副会長をはじめ町内会の方々に前日に準備された紅白の幕に、緋毛氈（ひもうせん）が敷かれた高座。そこへ浅緑色の着物と羽織を召された銀治氏の登場により、休憩中の和やかな雰囲気が一変し、まるで寄席に訪れたかのように感じられました。噺家さんが持っている扇子の使い方次第で情景が変わることなど、落語の楽しみ方を最初に教えてくださいました。そして、最初の演目は「寿限無」で始まりました。子どもたちは「知ってる、知ってる」というようにうなずき、何度も繰り返される「寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ…」に軽快な笑い声が響きました。その後「牛ほめ」「め薬」と演目が続き、特に「め薬」は比較的短いお話のようでしたが、ディープな落としどころが大人の笑いを誘い、気づけば終わりの時間となっていました。



参加されたお子さんが、銀治氏が実際に着用した羽織を着せてもらっている様子



高座から語り掛ける銀治氏の様子

閉会后、参加された方々が帰られる際には、銀治氏がお見送りに立って下さり、感想を思い思いに話しながら写真を撮ったりして、会館にはしばらく楽しそうな声が響いていました。「次回はいつ頃やるの?」「またぜひやってほしい!」と、多くの方がおっしゃっており、企画された新吉田第二町内会の役員の方々はそのお声でようやく、楽しんでいただけたのだとほっと一息つかれていました。参加された方の満足度も高かったこちらのイベント、次回開催に期待が高まります。